○収入役（堀川勇逸君） 地方自治法上、決算は収入役が調製をして町長に提出をするということになっておりますので、私から説明をさせていただきます。

まず、決算書、事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書であります。前年度決算同様、地方自治法施行規則、いわゆる総務省令に基づく様式を用いて調製をいたしました。

一般会計ほか企業会計でございます。水道会計を除きまして12の特別会計があります。それぞれ歳入歳出とも款のみの決算額を朗読させていただきます。また、不納欠損額のあるところにつきましては、その内容の概要をつけ加えさせていただきます。

平成16年度加美町一般会計歳入歳出決算。

歳入、第1款町税、予算現額22億5,780万5,000円、調定額25億1,747万6,861円、収入済額23億2,231万6,687円、不納欠損額1,174万6,695円、収入未済額1億8,341万3,479円。

不納欠損額の内容の概要であります。町民税につきましては、平成7年から平成11年度の86人分、238件であります。次の固定資産税の不納欠損額であります。平成6年から平成11年度の114人分、429件であります。次に、軽自動車税、同であります。平成10年から平成11年度の27人分、27件でございます。都市計画税であります。平成6年から平成11年度の29人分、107件であります。

第2款地方譲与税2億7,746万6,000円、2億8,132万7,000円、2億8,132万7,000円。

第3款利子割交付金1,500万円、1,384万1,000円、1,384万1,000円。

第4款配当割交付金354万8,000円、174万3,000円、174万3,000円。

第5款株式等譲渡所得割交付金、予算現額89万5,000円、調定額167万8,000円、収入済額167万8,000円。

第6款地方消費税交付金2億6,520万円、2億6,520万円、2億6,520万円。

第7款ゴルフ場利用税交付金1,280万円、1,396万2,327円、1,396万2,327円。

第8款自動車取得税交付金1億1,100万円、1億2,154万5,000円、1億2,154万5,000円。

第9款地方特例交付金5,921万9,000円、5,921万9,000円、5,921万9,000円。

第10款地方交付税62億2,705万1,000円、62億2,705万1,000円、62億2,705万1,000円。

第 11 款交通安全対策特別交付金 540 万 5,000 円、520 万 9,000 円、520 万 9,000 円。

第 12 款分担金及び負担金 6,141 万 1,000 円、6,249 万 9,657 円、6,204 万 2,429 円。1 欄飛んで収入未済額 45 万 7,228 円。

第 13 款使用料及び手数料 1 億 8,787 万 5,000 円、2 億 2,486 万 3,455 円、1 億 8,784 万 7,805 円、1 欄飛んで 3,701 万 5,650 円。

第 14 款国庫支出金 9 億 86 万 1,000 円、8 億 9,420 万 7,911 円、7 億 4,111 万 9,911 円、1 欄飛んで 1 億 5,308 万 8,000 円。

第 15 款県支出金 9 億 3,408 万 3,000 円、9 億 3,496 万 6,053 円、8 億 9,682 万 7,053 円、1 欄飛んで 3,813 万 9,000 円。

第 16 款財産収入 9,597 万円、9,654 万 2,467 円、9,652 万 1,277 円、1 欄飛んで 2 万 1,190 円。

第 17 款寄附金、予算現額 131 万 8,000 円、調定額 138 万 3,848 円、収入済額 138 万 3,848 円。

第 18 款繰入金 5 億 7,328 万 8,000 円、5 億 7,328 万 7,814 円、5 億 7,328 万 7,814 円。

第 19 款繰越金 2 億 338 万 2,000 円、2 億 338 万 2,088 円、2 億 338 万 2,088 円。

第 20 款諸収入 1 億 5,381 万円、1 億 6,918 万 7,458 円、1 億 6,893 万 7,648 円、1 欄飛んで収入未済額 24 万 9,810 円。

第 21 款町債 30 億 5,130 万円、27 億 9,760 万円、27 億 9,760 万円。

歳入合計、予算現額 153 億 9,868 万 7,000 円、調定額 154 億 6,617 万 2,939 円、収入済額 150 億 4,204 万 1,887 円、不納欠損額 1,174 万 6,695 円、収入未済額 4 億 1,238 万 4,357 円。

次に、歳出でございます。

第 1 款議会費、予算現額 2 億 5,337 万 4,000 円、支出済額 2 億 5,051 万 5,223 円、1 欄飛んで不用額 285 万 8,777 円。

第 2 款総務費 18 億 4,054 万 4,000 円、18 億 101 万 1,754 円、3,953 万 2,246 円。

第 3 款民生費 30 億 3,320 万 3,000 円、27 億 907 万 9,193 円、2 億 8,207 万 3,000 円、4,205 万 807 円。

第 4 款衛生費 9 億 7,893 万 9,000 円、9 億 5,969 万 9,292 円、1 欄飛んで 1,923 万 9,708 円。

第5款労働費、予算現額616万6,000円、支出済額580万6,484円、1欄飛んで不用額35万9,516円。

第6款農林水産業費12億4,732万8,000円、12億2,877万3,044円、1欄飛んで1,855万4,956円。

第7款商工費2億8,384万8,000円、2億6,297万1,591円、586万5,000円、1,501万1,409円。

第8款土木費19億6,714万1,000円、17億5,320万9,405円、1億8,137万7,000円、3,255万4,595円。

第9款消防費5億1,852万4,000円、5億1,096万7,965円、1欄飛んで755万6,035円。

第10款教育費20億551万6,000円、19億3,475万7,086円、1,819万8,000円、5,256万914円。

第11款災害復旧費507万円、376万2,545円、1欄飛んで130万7,455円。

第12款公債費、予算現額32億4,720万6,000円、支出済額32億4,600万166円、1欄飛んで120万5,834円。

第13款予備費1,182万8,000円、ゼロ、1欄飛んで1,182万8,000円。

歳出合計、予算現額153億9,868万7,000円、支出済額146億6,655万3,748円、翌年度繰越額4億8,751万3,000円、不用額2億4,462万252円。

歳入歳出差引残額3億7,548万8,139円。うち基金繰入金1億7,000万円、翌年度繰越額2億548万8,139円。

平成17年9月13日提出、加美町長星明朗。

次に、249ページをお開きになっていただきます。

実質収支に関する調書。

歳入総額150億4,204万2,000円、歳出総額146億6,655万4,000円、歳入歳出差引額3億7,548万8,000円、翌年度へ繰り越すべき財源、繰越明許費繰越額5,218万6,000円、計5,218万6,000円。実質収支額3億2,330万2,000円。実質収支額のうち地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額1億7,000万円。

次に、国民健康保険事業特別会計決算でございます。（「議長、ちょっと議事進行について」の声あり）

○議長（米澤秋男君） 12番。

○12番（近藤義次君）書類については前に渡されて議員各位が熟読しておりますので、簡単に御説明をお願いしたいと思います。わからないところは質問するわけですから。ある程度了承しているわけですから、よろしくお願いします。

○収入役（堀川勇逸君）わかりました。議長さん、特別会計につきましては、実質収支に関する調書を朗読したいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（米澤秋男君）よろしいですね。

○収入役（堀川勇逸君）それでは、平成16年度加美町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の31ページをお開きになっていただきます。

実質収支に関する調書。歳入総額27億2,083万円、歳出総額25億6,545万9,000円、歳入歳出差引額1億5,537万1,000円、実質収支額1億5,537万1,000円。実質収支額のうち地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額8,000万円。

次に、老人保険特別会計決算であります。12ページをお開きになっていただきます。

実質収支に関する調書。歳入総額33億1,951万2,000円、歳出総額32億7,475万5,000円、歳入歳出差引額4,475万7,000円、実質収支額4,475万7,000円。実質収支額のうち地方自治法第233条2の規定による基金繰入額ゼロ。

次に、介護保険特別会計決算、22ページをお開きになっていただきます。

実質収支に関する調書。歳入総額14億7,867万8,000円、歳出総額14億1,035万5,000円、歳入歳出差引額6,832万3,000円、実質収支額6,832万3,000円。実質収支額のうち地方自治法第233条2の規定による基金繰入額ゼロ。

次に、介護サービス事業特別会計決算でございます。9ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書。歳入総額3,593万円、歳出総額3,455万4,000円、歳入歳出差引額137万6,000円、実質収支額137万6,000円。実質収支額のうち地方自治法第233条2の規定による基金繰入額ゼロ。

続きまして、加美郡介護認定審査会特別会計決算、7ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書。歳入総額680万1,000円、歳出総額457万7,000円、歳入歳出差引額222万4,000円、実質収支額222万4,000円。実質収支額のうち地方自治法第233条2の規定による基金繰入額ゼロ。

続きまして、簡易水道事業特別会計決算、10ページをお開きになっていただきます。

実質収支に関する調書。歳入総額 9,333 万 6,000 円、歳出総額 9,042 万 6,000 円、歳入歳出差引額 291 万円、実質収支額 291 万円。実質収支額のうち地方自治法第 233 条 2 の規定による基金繰入額ゼロ。

続きまして、小野田簡易給水施設事業特別会計決算であります。9 ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書。歳入総額 364 万 7,000 円、歳出総額 266 万 4,000 円、歳入歳出差引額 98 万 3,000 円、実質収支額 98 万 3,000 円、実質収支額のうち地方自治法第 233 条 2 の規定による基金繰入額ゼロ。

続きまして、霊園事業特別会計決算、7 ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書。歳入総額 274 万 2,000 円、歳出総額 200 万円、歳入歳出差引額 74 万 2,000 円、実質収支額 74 万 2,000 円。実質収支額のうち地方自治法第 233 条 2 の規定による基金繰入額ゼロ。

続いて、町営駐車場事業特別会計決算、7 ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書。歳入総額 933 万円、歳出総額 790 万 2,000 円、歳入歳出差引額 142 万 8,000 円、実質収支額 142 万 8,000 円。実質収支額のうち地方自治法第 233 条 2 の規定による基金繰入額ゼロ。

続いて、小野田温泉保養センター等事業特別会計決算、19 ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書、歳入総額 4 億 65 万 6,000 円、歳出総額 3 億 6,853 万 8,000 円、歳入歳出差引額 3,211 万 8,000 円、実質収支額 3,211 万 8,000 円、実質収支額のうち地方自治法第 233 条 2 の規定による基金繰入額ゼロ。

続いて、下水道事業特別会計決算、21 ページをお開きになっていただきます。

実質収支に関する調書。歳入総額 15 億 3,633 万 5,000 円、歳出総額 15 億 435 万 5,000 円、歳入歳出差引額 3,198 万円、実質収支額 3,198 万円。実質収支額のうち地方自治法第 233 条の 2 の規定による基金繰入額ゼロ。

工業用地等造成事業特別会計決算、8 ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書。歳入総額 435 万 1,000 円、歳出総額 409 万 7,000 円、歳入歳出差引額 25 万 4,000 円、実質収支額 25 万 4,000 円。実質収支額のうち地方自治法第 233 条 2 の規定による基金繰入額ゼロ。

次のページより 17 ページほど財産に関する調書があります。ごらんになっていただきたいと思います。以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○議長（米澤秋男君） 上下水道課長。

○上下水道課長（二瓶悟君） 1 ページお願ひしたいと思ひます。

平成 16 年度加美町水道事業決算報告書。

(1) 収益的収入及び支出、収入、第 1 款水道事業収益、当初予算額 5 億 561 万 9,000 円、補正予算額 215 万 2,000 円、合計 5 億 771 万 1,000 円、決算額 5 億 4,170 万 714 円、予算額に比べ決算額の増減 3,392 万 9,714 円、備考、うち仮受消費税 2,473 万 4,446 円。

支出、第 1 款水道事業費用、当初予算額 5 億 561 万 9,000 円、補正予算額 215 万 2,000 円、小計 5 億 777 万 1,000 円、合計も同額でございます。決算額 4 億 7,661 万 1,825 円、不用額 3,115 万 9,175 円、うち仮払消費税 1,240 万 6,715 円。

次のページお願ひします。

(2) 資本的収入及び支出、収入、第 1 款資本的収入、当初予算額 6,320 万円、補正予算額 1,480 万円、小計 7,800 万円、合計、同額でございます。決算額も同額でございます。

支出、第 1 款資本的支出、当初予算額 1 億 9,791 万 1,000 円、補正予算額 4,482 万 6,000 円、小計 2 億 4,273 万 7,000 円、地方公営企業法第 26 条の規定による繰越額 3,940 万円、合計 2 億 8,213 万 7,000 円、決算額 2 億 5,856 万 8,271 円、不用額 2,356 万 8,729 円、うち仮払消費税 963 万 3,140 円。

資本的収入額が、資本的支出額に不足する額 1 億 8,056 万 8,271 円は過年度分損益勘定留保資金 1 億 7,093 万 5,131 円及び当該年度消費税資本的支出調整額 963 万 3,140 円で補てんいたしました。以上でございます。

○議長（米澤秋男君） 説明が終わりました。

続いて、監査委員の決算審査意見書の報告を求めます。代表監査委員。

○代表監査委員（引地田路子君） 大変申しわけございません。最初からちょっと訂正がございまして、まず 9 ページお開きいただきたいと思います。

9 ページの表の下の説明書きの 2 行目なんですけれども、そこに予算現額に対する収入率は「97.3%」という記載になっていたんですけれども、これは「97.7%」の誤りでしたので、訂正させていただきます。

それでは、決算審査の意見書の説明に入らせていただきたいと思います。

1 ページから御説明申し上げたいと思います。平成 16 年度加美町一般会計・特別会計歳入歳出決算並びに基金運用状況審査意見書ということで、まず審査の概要、1 番目の審査の対象は、平成 16 年度加美町一般会計歳入歳出決算、平成 16 年度加美町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算ほか 11、全部で 12 の特別会計の審査をさせていただきました。

審査の期間は、平成 17 年 7 月 26 日から 8 月 18 日までのうちの 13 日間させていただきました。

審査の手續といたしまして、審査に付された各会計の歳入歳出決算書、歳入歳出事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に会する調書並びに基金の運用状況を示す書類について、関係法令に準拠して作成されているかどうかを確かめ、これらの計数の正確性を検証するために関係諸帳簿そのほか証書類を照合し、あわせて関係職員の説明を聴取するとともに、例月出納検査、定期監査結果等をも参考に審査を実施いたしました。

次の財政の構造ということで、財政の構造については普通会計により分析したものを採用させていただきました。次のとおりになっております。

普通会計は、一般会計と加美郡介護認定審査会特別会計、小野田簡易給水施設事業特別会計、霊園事業特別会計、小野田温泉保養センター等事業特別会計の四つの特別会計から構成されておりまして、これらの会計間の繰り入れ、繰り出しを調整したものであります。

表の説明は前に提出していたしましたので、私方の調べた意見だけお話ししたいと思います。

下の文章の分、決算状況は、歳入総額 152 億 3,259 万 5,000 円、歳出総額 148 億 2,104 万円で、差し引き 4 億 1,155 万 5,000 円でございますが、翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支額は 3 億 5,936 万 9,000 円の黒字、これから前年度実質収支額を控除した単年度収支の額は 7,472 万円の赤字となっております。

歳入の状況ですが、財源別歳入の状況は下の表のとおりとなっております。表の説明は省かせていただきまして、下の文章だけ御説明申し上げます。

歳入決算額を一般財源と特定財源の構成比で見ますと、特定財源は町債の減などによりまして前年度に比べ 7.1 ポイント低下しております。また、自主財源と依存財源を見ますと、依存財源である町債の大幅な減により 1.9 ポイント低下いたしております。

次の歳出の状況でございます。歳出の性質別経費は一応下の表のとおりとなっております。

歳出決算額を性質別に分析しますと、前年度と一応対比して出してみました。義務的経費で公債費の増により 8 ポイント上昇しております。また、投資的経費では大規模事業の完了

等から 10.2 ポイント低下しております。なお、このほかの経費については、繰出金の増により 2.0 ポイントだけ上昇しております。

次は、財政の分析ということで一応表を上げておりましたけれども、ことしは起債制限比率というのにも採用してみました。

財政力指数は市町村の、皆さん御案内のとおりでございますけれども、財政力をはかる指数で、財政力指数は 1 に近いほど財政力が強いとされ、余裕財源を有する指数でございます。当年度は前年度よりも 0.01 ポイント上昇し 0.31 となっております。

経常収支比率は、歳入のうちの経常的な一般財源が歳入の経常的経費にどれだけ使われているかを示すもので、財政構造の弾力性を判断する指数でございます。通常は 75%程度におさまることが標準的と考えられております。当年度は前年度より 8.6 ポイント上昇いたしまして 97.1%となっております。

それから、3 番目の公債費比率の方は、一般財源が町の公債費の返済額にどれくらい使われているかをあらわした指標でございます。当年度は前年度よりも 3.4 ポイント上昇して 24.8%となっております。

起債制限比率の方は、公債費比率とほぼ同じ意味合いで、町の借金返済額から地方交付税に算入される元利償還金を除いた過去 3 年間の平均ということなんですけれども、一応 3 年前は合併前でしたが、それで計算して借金体質の度合いを判断する指標で、この比率は 20%を超えると町債、借金することか制限されるということになるんだそうです。当年度は前年度よりも 1.0 ポイントだけ上昇し 15%となっております。

次は町債の状況、7 ページを御説明したいと思います。

町債の状況は、一般会計・特別会計の平成 16 年度末現在高は 302 億 4,994 万 1,000 円となり、前年度末現在高と比較しますと 1 億 436 万 6,000 円増加しております。

債務負担行為の状況も翌年度以降、支出予定額は前年度に比較して 2 億 6,787 万 9,000 円減少いたしております。

ここからは一応一般会計ということで、特別会計と一般会計を分けまして、一般会計から決算について報告したいと思います。

一般会計の決算の状況は、下の表のとおりになっております。実質収支のうち地方自治法第 233 条の 2 の規定による基金繰入額は 1 億 7,000 万円で、翌年度への繰越額は 1 億 5,332 万 2,139 円でございます。

歳入の状況は、ちょっと表の字が細かいんですけども、下のおりになって、一応前年度対比で作成しておりますので見ていただきます。

次のページは、歳入決算構成の対比、年度比較ということで15年度と比較させていただいております。

下の文章の文は、本年度の収入済額は150億4,204万1,887円となっており、予算現額の153億9,868万7,000円に對しまして3億5,664万5,133円0減で、予算現額に対する収入率は97.7%、また、調定額の154億6,617万2,939円に対する収入率は97.3%となっております。

不納欠損額は1,174万6,695円、対調定比0.1%、収入未済額は4億1,238万4,357円、対調定比で2.7%でございます。これを前年度と比べてみますと、収入済額は23億8,659万2,643円、13.7%減少しておりますが、不納欠損額は341万7,815円、収入未済額は4,594万7,590円それぞれ増加いたしております。

なお、歳入決算額の構成を前年度と比較しますと、町債は15億8,970万円、諸収入7億8,854万9,000円、国庫支出金3億1,554万2,000円など大きく減少いたしております。

歳入の項目に今回は配当割交付金と株式等譲渡所得割交付金、繰越金が新たに追加されております。

次、町税ということで一応表を載せております。これも一応予算とか調定に対する対比ということで載せております。上の文章の方だけ説明いたします。

本年度の町税の収入済額23億2,231万6,687円となっており、予算現額22億5,780万5,000円と比較しますと6,451万1,687円上回っております。

収入済額の主なものは町民税、固定資産税でございますが、収入済額合計を前年度と比較しますと467万6,267円の減となっております。

下の方に不納欠損のこと、収入未済額のことを、ちょっと増加いたしておりますので、記載しておきました。

次は、11ページの歳出の状況ということで、一般会計の当年度歳出決算状況及び歳出決算額の構成比を前年度と対比して示すと次のとおりでありますということで表を載せておきましたので、ごらんになっていただきたいと思います。

この予算現額の153億9,868万7,000円に対する決算額は146億6,655万3,748円、執行率は95.2%、不用額は2億4,462万252円となっております。これを前年度と比べてみま

したら、支出済額は23億5,869万8,694円の減、翌年度繰越額は1億1,944万4,000円の増、不用額3,065万2,306円の減となっております。翌年度への繰越額、繰越明許費は4億8,751万3,000円となっており、その内容は地方自治法第213条に基づき既に議会に報告されておる金額でございます。

次、一応款別ということで記載しておきましたので、これに対する説明は省かせて、ただ、12ページの総務費なんですけれども、総務費の支出済額は前年度に比べて7億6,607万2,665円減少しています。

支出済額の主なものは、総務管理費、徴税费などです。総務管理費は前年度に比べて7億3,760万5,981円減少して、これは主に地域イントラネット基盤整備事業6億2,237万4,000円、それから減債基金の積立金1億8,003万6,000円がそれぞれ減少したことによるものでございます。

不用額については、以下のとおりでございます。

それから、民生費につきましては、保育所の建設事業ということで5億2,311万2,000円がふえたというのが児童福祉費の増加した部分でございます。

翌年度繰越額は、統合保育所建設事業費で明許繰り越しされたものでございます。

不用額は前年度に比べ669万1,432円増加いたしております。予算に対する執行率は8.9ポイント減少しております。

衛生費につきましても、下水道事業の関係でございますので、文章は読んでいただきたいと思えます。

13ページ、労働費は以下のとおりで、農林水産業費、これに対しても説明は省かせていただきます。

それから、商工費、土木費、土木費の方なんですけれども、土木費のこの説明書きをお話しします。土木費の支出済額は前年度に比べて3億3,794万506円増加いたしております。

支出済額の主なものは、道路橋梁費、都市計画費住宅費でございます。道路橋梁費は前年度に比べて187万2,193円増でほぼ同額でございます。都市計画費は前年度に比べて2,647万3,730円増加しております。これは主に下水道事業の繰出金の2,686万4,000円がふえたこととなります。

それから、住宅費は前年度に比べて3億2,640万2,368円増加しております。これは主に町営住宅の建設事業の3億4,590万7,000円がふえたことによるものです。

翌年度の繰越額は、道路新設改良費の町道整備事業と町営住宅建設事業で明許繰り越しされているものでございます。

それから、消防費は以下のとおりでございます。

教育費につきましてはその表のとおりで、教育費の支出済額は前年度に比べて 24 億 6,876 万 3,818 円減少いたしております。支出済額の主なものは社会教育費、保健体育費。

それから、教育総務費は前年度に比べまして 5,173 万 816 円減少しております。これは主に教育施設等の整備基金 4,999 万 9,000 円が減少したことによるものです。

それから、小学校費は前年度に比べ 4,550 万 7,326 円、中学校費は前年度に比べて 4,406 万 5,506 円、幼稚園費は前年度に比べて 1,448 万 2,674 円それぞれ減少いたしております。

社会教育費は前年度に比べて 24 億 8,445 万 9,051 円と減少しております。これは主に小野田の文化施設の建設事業の 24 億 8,660 万 9,000 円が減少したことによるものでございます。

あと、陶芸の里スポーツ公園陸上競技場施設事業費 1 億 3,671 万 4,000 円、保健体育費の件はそれがふえたものでございます。

それから翌年度繰越額は、体育施設費の陶芸の里スポーツ公園陸上競技場整備事業で明許繰り越しされたものでございます。

11 款の災害復旧費はこの表のとおりでございます。

それから、公債費につきましてもこの表のとおりでございます。

予備費につきましては、予算全額が一応不用額となっております。

次は特別会計に入ります。

特別会計についても表の説明は省かせていただきます。

町は特定の事業を行うため特別会計を設置してこの経理の明確化を図っております。本年度は国民健康保険事業特別会計ほか 11 会計でありまして、決算状況は下のとおりでございます。

次の 19 ページ、国民健康保険事業特別会計から、国民健康保険事業特別会計の決算状況は下のとおりでございます。決算収支は 15 億 5,371 万 157 円の黒字決算でございます。その歳入歳出差引額は地方自治法第 233 条の 2 の規定により国保財政調整基金に 8,000 万円を繰り入れて、平成 17 年度に 7,537 万 1,157 円を繰り越ししております。

歳入につきましても下の表のとおりでございます。

本年度の決算額は、予算現額 25 億 9,930 万 4,000 円に対しまして収入済額は 27 億 2,083 万 349 円で 1 億 2,152 万 6,349 円の増、調定額に対する収入率は 91.6%でございます。

収入済額の主なものは、国庫支出金、国民健康保険税、繰入金でございます。

不納欠損金は 1,463 万 350 円、対調定比 0.5%、収入未済額は 2 億 3,616 万 5,096 円、7.9%となっております。なお、前年度に比べますと収入済額は 3.9%減少して、不納欠損額は 5.9%、収入未済額は 6.7%それぞれ増加いたしております。

国民健康保険税の収納状況は下のとおりでございます。

歳出につきましては、本年度の決算額は予算現額 25 億 9,930 万 4,000 円に対して 25 億 6,545 万 9,192 円で 98.7%の執行率でした。3,384 万 4,808 円の不用額でございます。

支出済額の主なものは保険給付費ほか老人保健拠出金、前年度に比べますと支出済額で 1 億 5,960 万 2,738 円の減でございます。これは主に老人保健拠出金で 1 億 771 万 5,000 円、国保財政調整基金積立金 4,035 万円、諸支出金で 4,669 万 7,000 円がそれぞれ減少したものでございます。

次は、老人保健特別会計につきましては、老人保健特別会計の決算状況は下の表のとおりで、決算収支は 4,475 万 7,278 円の黒字決算となり、平成 17 年度に全額繰り越しいたしております。

以下、歳入歳出につきましては下の表のとおりでございますので、説明は省略させていただきます。

次の介護保険特別会計は、収支決算の状況は下の表のとおりで、決算収支は 6,832 万 3,215 円の黒字となり、全額 17 年度に繰り越しされております。

歳入につきましては、以下の表のとおりでございます。

次は、23 ページの介護サービス事業特別会計に移らせていただきます。

収支決算状況は下の表のとおりでございます、決算収支は 137 万 6,445 円の黒字決算で全額 17 年度に繰り越しされております。

歳入につきましても下の表のとおりとなっております。

本年度の決算額は、予算現額 3,673 万 1,000 円に対しまして収入済額が 3,593 万 341 円、80 万 659 円の減で、調定額に対する収入率は 99.9%でございます。

収入済額の主なものは繰入金、サービス収入、前年度に比べて収入済額は 22.2%減少いたしております。

歳出については、下のとおりでございます。

次は、加美郡介護認定審査会特別会計、収支決算の状況は次のページのとおりでございます。

決算収支につきましては 222 万 4,176 円の一応黒字ということで、その全額を平成 17 年度繰り越しいたしております。

歳入につきましても下のとおりでございます。

歳出につきましても下の表のとおりでございます。

次は、26 ページの簡易水道事業特別会計、収支決算状況は下の表のとおりで、決算収支は 291 万 218 円の黒字決算となっております。17 年度にその全額を繰り越しいたしております。

歳入につきましてもこの表のとおりでござい ちよっと収入未済額が増加しております。

それから、水道使用料の収納状況は下のとおりで 70 万円の収入未済額がございます。

次の 27 ページ、歳出につきましてもこのとおりでございますので、見ていただきたいと思っております。

小野田簡易給水施設事業特別会計、収支決算状況は下のとおりでございます。決算収支は 98 万 3,056 円の黒字で、全額平成 17 年度に繰り越しをいたしております。

歳入につきましても省略させていただきます。

水道収入状況も下の表のとおりでございます。

歳出につきましても下のとおりでございますので、見ていただきたいと思っております。

次は、霊園事業特別会計、霊園事業特別会計の決算状況は下の表のとおりでございます。決算収支は 74 万 1,297 円の黒字決算で、その金額は全額平成 17 年度に繰り越しをいたしております。

それから、歳入歳出につきましては下の表のとおりでございますので、省略させていただきます。

町営駐車場特別会計に入らせていただきます。

収支決算状況は下の表のとおりでございます。決算収支は 142 万 7,586 円の黒字決算となりまして、全額平成 17 年度に繰り越しいたしております。

歳入の状況は、下の表のとおりでございます。

歳出につきましては、31 ページのとおりとなっております。

次は、小野田温泉保養センター等事業特別会計、収支決算事業は下の表のとおりで、決算収支は3,211万7,885円の黒字決算となり、平成17年度に全額繰り越しいたしております。

歳入につきましては、次のページで一応説明させていただきますが、本年度の決算額は予算現額3億9,878万8,000円に対しまして、収入済額が4億65万6,072円で192万3,072円の増、調定額に対する収入率は100%でございます。

収入済額の主なものは財産収入、使用料及び手数料、繰越金、前年度に比べますと収入済額は10.8%減少いたしております。

歳出につきましては下の表のとおりで、本年度の決算額は予算現額3億9,873万3,000円に対しまして支出済額3億6,853万8,187円で、92.4%の執行率でございます。

支出済額の主なものは、保養施設費、休養交流施設費、農村景観活用交流施設費、農村漁業体験施設費、農林産物直売施設費、山村活用施設費、総合交流ターミナル施設費でございます。

前年度に比べますと支出済額で3,816万6,722円減少いたしておりこれは主に保養施設費の需用費等で2,013万7,000円が減少したことによるものでございます。不用額は696万8,278円減少しております。

下水道特別会計に入ります。

収支決算状況は次のとおりでございます。決算収支は3,198万492円の黒字決算となりまして、全額平成17年度に繰り越しをいたしております。

歳入につきましては、本年度の決算額は予算現額15億2,154万8,000円に対しまして収入済額が15億3,633万5,502円で1,478万7,502円の増、調定額に対する収入率は98.7%、収入済みの主なものは繰入金、町債、国庫支出金、前年度に比べますと収入済額は3.4%、収入未済額は13%増加いたしております。

それから、下水道事業の収納状況は下のとおりとなっております。

次の歳出についてでございます。表は省略させていただいて下の文だけ。本年度の決算額は予算現額15億2,154万8,000円に対しまして、支出済額15億435万5,010円で98.9%の執行率でございます。1,719万2,990円の不用額が出ております。

支出済みの主なものは、建設費、公債費、総務費でございます。前年度に比べますと支出済額で3,475万9,144円ふえております。これは主に建設費の下水道污水管渠工事7,330万1,000円増加して、委託料で2,346万円減少したことでございます。

それから、次の工業用地等造成事業特別会計の収支決算状況は下のとおりでございます。
決算収支は25万4,323円の黒字決算で、全額17年度に繰り越しをいたしております。
それから、歳入歳出についての説明は一応省かせていただきます。

公有財産の状況は下の表のとおりになっております。最初が土地及び建物ということで、
次は山林の方を計上いたしております。

次のページは有価証券と出資による権利という部分で、有価証券では当年度末現在高312
万4,700円で30万円の減となっておりますが、これは社債の償還によるものでございます。

それから、出資による権利は当年度末現在高4億8,496万1,000円で383万円の減となっ
ております。これは出資の増額及び減額、増額が3件、減額が2件によるものでございます。

物品については、下の表のとおりでございます。

基金につきましても、この表のとおりでございます。ただ、基金に含まれる不動産、土地
については、換算額及び貸付金とかというのは含まれていない数値でございます。以上のと
おりでございます。

一応「むすび」といたしまして、39ページでございます。平成16年度決算は合併して2年
目の決算となっております。当年度の一般会計歳入歳出決算の状況を見ますと、歳入150億
4,200万円、歳出146億6,700万円で、前年度に比べますと歳入は13.7%、歳出で13.9%の減
となっております。決算収支は3億7,500万円の黒字、実質収支は3億2,300万円の黒字で
ございますが、前年度実質収支額を控除した単年度収支は7,200万円の赤字となっております。
合併初年度であるし、平成15年度決算に比べまして景気の低迷等により町税で0.2%減、
国と地方の財政再建を図るため平成16年度から実施された三位一体の改革等により地方譲
与税で27%の増、それから地方消費税交付金で11.5%の増、地方交付税では2.3%の減となっ
ております。

また、平成15年度決算は小野田文化センター建設事業、地域イントラネット基盤整備事業
等の大規模事業や旧3町からの剰余金、執行残などを含み多額の決算額となっておりますが、
平成16年度はこれらが終了したことにより通常の見積規模となっております。

一般会計に特別会計を合わせた総決算額では歳入246億5,400万円、歳出239億3,600万
円で、決算収支は7億1,800万円の黒字、実質収支は6億6,600万円の黒字でございますが、
前年度実質収支額を控除した単年度収支は1億400万円の赤字となっております。

普通会計によって財政構造を見ますと、財政力指数は前年度より 0.01 ポイント上昇、0.31、経常収支比率は平成 14 年度の 86.9%から年々上昇しましてことしは 97.1%となって、財政の硬直化が急速に進んでいることを示していると思います。公債費比率は 3.4 ポイント上昇し 24.8%、起債制限比率は 1.4 ポイント上昇して 15%となっております。

歳入構成を見ますと、一般財源の割合は 7.1 ポイント上昇し 72.4、自主財源の割合が 1.9 ポイント上昇し 26.2%で前年度よりふえておりますが、決算額は前年度より一般財源で 5.2%、自主財源で 8.0%低下しております。

歳出の構成を見ますと、義務的経費の割合が 44.1%と前年度より 8.0 ポイント上昇いたしております。

以上のことから経常収支比率、公債費比率、起債制限比率、義務的経費比率、町債発行額など中長期数値改善指数を挙げた財政計画を毎年度適正にローリングし、財政健全化に向けた取り組みが望まれます。

また、当町の人口動向を見ましても、今後多くの増収は期待できないことと、町税などの収入未済額及び不納欠損額が前年度に比し増加していることから、課税客体的確な把握に基づいた賦課と徴収に一層努め、町税の収入率の向上、適正な受益者への負担、新しい財源の確保など歳入の安定的な確保と今後一層諸経費を節減するとともに、施策の緊急度を的確に把握し行政の簡素化、効率化に努め、将来を展望した計画的な行財政運営によって健全財政の維持を図ることが緊要であると考えられました。

以上で一般会計・特別会計の方を終わらせていただきます。

次は、水道会計です。

続いてございますので、平成 16 年度の加美町水道事業会計決算審査の意見書の説明でございます。

審査の概要ということで、審査の対象は平成 16 年度加美町水道事業会計決算でございます。

審査の期間は、平成 17 年 7 月 27 日、1 日間でした。

審査の手続は、審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び附属明細書について関係法令に準拠して作成され、当事業の経営成績及び財務状態を適正に表示しているかどうかを検証するため、会計諸帳簿及び証書類と照合し、かつ例月出納検査を参考に、関係職

員の説明を求めて事業運営が地方公営企業法等の規定に基づき適正に執行されたかについて慎重に審査いたしました。

審査の結果、審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書、及び附属明細書はいずれも地方公営企業法等関係法令に準拠して作成されており、当該年度末における財政状況及び経営は適正に表示されており、事業も総じて経営努力され、かつ事務処理も適正であることを認めました。

審査の結果の詳細は、次のページのとおりでございます。

事業の概要、事業の概要は下のとおりであります。前年度と比較しますと幾らか増加傾向にありますけれども、余り大差なく推移いたしております。

次に、予算執行の状況について、予算執行状況は下の表のとおりでございます。収益的収入及び支出ということで、これは消費税を含んだ金額でございます。

事業収益の決算額は5億4,170万714円で、予算額5億777万1,000円に対しまして3,392万9,714円の収入増で、収入率は106.7%となっております。これは営業収益の根幹である給水収益の増によるものでございます。

事業費用の決算額は4億7,661万1,825円で、予算額5億777万1,000円に対し93.9%の執行率となっております。不用額は3,115万9,175円でございます。これは主に営業費用の経費節減によるものであると思っております。

次の資本的収入及び支出というところの表はそのとおりになっております。

当年度の建設改良費は、老朽管更新事業、配水管布設工事により配水設備の整備が主なものでございます。なお、建設改良費は前年度の繰越金3,940万円が含まれております。

資本的収入の決算額は7,800万円で、資本的支出の決算額は2億5,876万8,270円となっており、資本的収入額が資本的支出額に不足する額1億8,056万8,271円は当該年度消費税資本的収支調整額963万3,140円、過年度分損益勘定留保資金1億7,093万5,131円をもって補てんされておりました。

経営の成績につきましては一応下の表のとおりで、当年度の経営成績を前年度と対比して示した表は次の表の損益計算書のとおりでございます。この表は説明を省かせていただいて、こちらで説明させていただきます。

営業収益は5億261万6,231円で、前年度に比較して2,032万5,060円の増となっております。これは給水人口の増に伴い給水収益がふえたことによるものであります。

営業費用は4億2,511万2,008円で、前年度に比較して8,395万8,776円の減となっております。これは合併初年度であった前年度に減価償却費と資産減耗費の調整額が含まれており、決算額が大きかったことによるものでございます。

営業外収益は1,435万128円で、前年度に比較して9,474万1,167円の減となっております。これは減価償却費及び資産減耗費等の調整費用として他会計から補助金が大幅に減少したことによるものでございます。

財政状況について、当年度末の財政状況を前年度と対比して示しますと、次表の貸借対照表のとおりとなっております。次のページで説明いたします。

本年度における資産総額は43億3,196万7,002円で、前年度に比較して5,503万2,729円増加しました。主なものは構築物の有形固定資産で8,492万6,532円の増、流動資産で2,989万3,803円の減でございます。

負債及び資本の合計の総額は43億3,196万7,002円で、前年度に比較して5,503万2,729円増加して、負債では流動負債で2,215万842円の減、資本金では借入資本金6,727万822円、剰余金合計で7,045万5,749円それぞれの増加でございます。

それから、「むすび」といたしまして、一応未収金の徴収確保ということで載せております。

前年度に比較して未納者で142人及び未収金で374万6,546円で、これが大幅に増加しております。滞納者に対しましては厳正なる対応措置を講じ、より一層徴収に努力されるよう要望いたします。

それから、2番目は健全経営ということで、平成16年度の事業実績は給水人口は前年度2万6,218人に対しまして2万6,334人で0.4%の増加でございます。有収水量は前年度2,228.7トンに対し2,351.5トンで5.5%の増加でございます。有収率は前年度83.3%に対し85.5%で2.2%の増加でございます。

経営成績は、営業収益・営業外収益5億1,696万6,359円に対し営業費用・営業外費用4億6,107万4,663円となっており、特別損失43万5,947円を差し引いた当年度純利益は5,545万5,749円でございます。この額は前年度純利益4,414万729円に比較して1,131万5,020円の増加でございます。合併に伴う水道料金等格差是正や各種施設整備に要する経費としての他会計補助金は、前年度1億796万2,000円に対し1,312万1,000円で9,484万1,000円と大幅に減少しております。健全経営であると判断できますが、平成17年度以降実

施される県水の受水料の負担増等に備えなお一層の経営の効率化に努められ、これらの長期的な対策を検討し計画的な財政運営を図ることが望まれます。

以上で決算審査意見書の説明にかえさせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（米澤秋男君） 報告が終わりました。

お諮りいたします。ただいま議題となっております認定第 1 号から認定第 14 号までについては、先例 69 及び 103 の規定により、議長を除く全員で構成する平成 16 年度決算審査特別委員会を設置し、これに付託して慎重に審査することにしたいと思えます。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（米澤秋男君） 御異議なしと認めます。よって、本議会は平成 16 年度決算審査特別委員会の審査が終了するまで休会することに決しました。

本日はこれで散会いたします。

なお、議員各位に申し上げます。委員会条例第 9 条の規定によりまして、平成 16 年度決算審査特別委員会を本日 13 時 30 分より本議場に招集いたします。御参集のほどよろしく願います。

午後 0 時 19 分散会

上記会議の経過は、事務局長澤口 信が調製したものであるが、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 17 年 9 月 14 日

加美町議会議長 米 澤 秋 男

署 名 議 員 佐 藤 澄 男

署 名 議 員 福 島 久 義